

年頭 解説

人材育成12カ月の指針

貴社の教育施策の実施手順・タイミングは最適ですか

株式会社オフィスあん 代表取締役 松下直子

■教育に啐啄の機あり

「^{そったく}啐啄同時」という言葉がある。雛が卵から^{かえ}孵るときにコンコンと内側から殻を叩くのが「^{そつ}啐」。その音を聞いた母鳥が叩き返すのが「^{たぐ}啄」。雛は自分では殻を割れないので中からコンコンと合図を送り、それを聞いた母鳥がコツンと嘴で殻に穴を開けることによって、雛は卵から這い出してくる。もし、母鳥が雛の合図に気づかなかつたら、雛は自力で外に出られず、死んでしまうことになる。もちろん、母鳥が殻を割るタイミングが早すぎでもいけない。十分に育たないまま外気に触れれば、雛はやはり、たちまち死んでしまう。

社員教育も同じ。育ちたいと思う人と、育てたいと思う人のタイミングを合わせることが不可欠だ。新年の今号の特集は、社員教育の‘タイミング’をキーワードにして、社員教育の1年間を俯瞰する。



構成

時機を得た取り組みを

- 1月：トップの所感をチェック
- 2月：評価者研修は“次”のために
- 3月：採用と現場をつなぐ
- 4月：新人に組織の掟を伝える
- 5月：新人は組織で育む
- 6月：自己申告の行間を読む
- 7月：研修を目的に照らし見直す
- 8月：社外で自己研鑽に励む
- 9月：メンタルヘルスへの対応準備を図る
- 10月：異動による引き継ぎのサポート
- 11月：昇格の意思を問う
- 12月：人材育成の責任を自らに問う



●松下 直子（まつした なおこ）

株式会社オフィスあん 代表取締役。社会保険労務士，人事コンサルタント。

神戸大学卒業後、江崎グリコ(株)に入社。新規開拓の営業職、報道担当の広報職、人事労務職を歴任。人事部門では、採用、育成、人事制度設計と運用、労務管理と幅広く人事業務に携わる。現在は、社会保険労務士、人事コンサルタントとして顧問先の指導にあたる一方、民間企業や自治体からの研修依頼は年間200本を超える（2011年実績）。人材育成を生涯のライフワークと決意し、社会人教育に意欲的に向き合うかたわら、士業家の独立支援事業、文化教育事業にも取り組み、幅広く人材育成に携わっている。著書に『採用・面接で「採ってはいけない人」の見きわめ方』（同文館出版）など。

<http://www.oan.co.jp>